

や三河高原などは、陰影のコントラストも弱くフラットなパターンを示している。

- 1 讃岐山脈、石鎚山脈、和泉山脈、木曾山脈、赤石山脈を茶色で、吉野川、紀ノ川、天竜川を青色で書き入れる。
- 2 四国山地、紀伊山地、木曾山地にかけての主なリニアメントを赤鉛筆で書き入れる。
- 3 記入した主なリニアメントの中で、中央構造線に相当するものはどれか。また、糸魚川—静岡構造線に相当するものはどれか。教科書の日本列島地質図を参考にして調べる。
- 4、中央構造線の南側（外帯）は、洗濯板のように壮年期地形を示すのに対し、内帯の中国地方や三河高原地方は、陰影のコントラストも弱く地表の起伏は小さい。地質図を参考にして、その原因を考える。

—チェック・ポイント—

3 中央構造線、糸魚川—静岡構造線等の主な構造線について

① 中央構造線

西南日本を内帯と外帯に分ける構造線で、

愛媛県の新居浜—伊予三島にかけ、また天竜川に沿って白っぽい帯が見られ、その帯の東縁でシャープなリニアメントが、中央構造線を示す明瞭なリニアメントである。

② 糸魚川—静岡構造線

画像では、諏訪湖を通り、北北西から南南東に大きく曲って静岡に達するリニアメントが、これに相当する。この構造線を境に、西と東の地形の配列に変化が見られ、西側では、陰影やリニアメントは南北方向で、また、木曾・赤石山脈、伊那山地等も南北方向に配列しているのに対し、東側の関東山地では東西に近い方向に尾根が配列している。

③ みかぶ構造線

四国の石鎚山脈の中央が雪で白く写っている。その雪の西方に2本の明瞭なリニアメントがあり、その南側のリニアメントが、三波川帯の南縁にあたる“みかぶ構造線”に相当する。この構造線は、四国では比較的明瞭に認められるが、紀伊半島では四国ほど明瞭でない。



図7 西南日本の地質構造（解説図）